

Z会東大進学教室

高2 選抜東大英語

高2 東大英語



# 1章

## 問題

【1】

A.

### 解答

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) 「全訳」の下線部③参照。
- (4) ①形式主語 it の内容を表す名詞節を導く接続詞。  
② something を先行詞とする関係代名詞。  
③ suspect の目的語になる名詞節を導く接続詞。  
④ tradition の内容を述べる同格の名詞節を導く接続詞。

### 全訳

たいていの親は子供を大学にやりたがる。そして子供のほうも、大部分は、大学にぜひ行きたいと思っている。①大学には平凡な未成年者を優れた大人に変えるような何かがあると考えるのが、我々のしきたりである。②大学に通ったことのある人々は、そのようなことはないと思っているが、そう言う人はめったにいない。彼らは卒業生であるし、③卒業生として、大学が——いづれにせよ自分の卒業した大学だが——この世で最もすばらしい場所であるというしきたりを守ることが、彼らの一生の仕事なのである。

B.

### 全訳

書齋における怠惰がいかに大切であるかということを人々は忘れていく。もちろん、何もしないというのではない。何もしないというのは、空想にふけてぼんやりとしていることを意味する。怠惰とは、本来ならば読んでおくべきではない書物を読み、それらに没頭するあまりに、夕刻になって、その日の朝読もうと思って目の前に積んで置いた書物のほとんどに手を付けていない状態のことである。創造的な怠惰は知性を広げる。

C.

### 全訳

人間は生産しないで消費する唯一の動物である。人間はミルクを出さないし、卵を産まないし、弱すぎて鋤をひっぱることもできないし、ウサギを捕らえるほど速く走ることもできない。それなのに人間はすべての動物の統治者なのだ。人間は動物に仕事をさせ、動物がかりうじて餓死しない最小量を動物に返し、残りを自分のためにとっておくのだ。

## 【2】

### 解答

- (1) ①アメリカでは、黒人が陸上競技だけでなくバスケットボール、フットボール、野球において優位を占めているということ。  
②スポーツが、黒人の若者の間に反知性主義の考えを広める手助けをしてしまったということ。
- (2) 「全訳」の下線部①, ②参照。
- (3) b
- (4) d

### 解説

- (1)
- ① this が指すのは as much の内容と同じである。すなわち、「アメリカでは、黒人が陸上競技だけでなくバスケットボール、フットボール、野球において優位を占めているということ」である。
- ② この This は前文の that 節の内容を指している。
- (2)
- ①◇ Sports have offered them opportunities to succeed that discrimination has closed to them in other fields.
- offer them opportunities : offer は目的語を2つとることができる。them は America's blacks のこと。
  - opportunities to succeed that discrimination has closed to them in other fields : to succeed は形容詞用法の不定詞で、opportunities を修飾する。that は opportunities を先行詞とする関係代名詞で、目的格である。
  - them = America's blacks
- ②◇ That young blacks have succeeded not because of exceptional natural talent.
- 前文の the most important point of all を言い換えている。そのため、that 節のみの文になっている。
  - exceptional 「例外的な；まれな」
  - natural 「生まれながらの；生来の」
- ◇ They have gotten where they are through sheer hard work, discipline, and determination.
- They have gotten where they are = They have succeeded
  - through : 「手段」を表す前置詞。
- (3)
- a As to ~ 「～について；～に関して」
- b Thanks to ~ 「～のおかげで；～のせいで」
- c Nevertheless 「それにもかかわらず」副詞であることに注意。
- d Without 「～なしに」

(4)

直前の文がヒントになるであろう。文の内容は、「若いアフリカ系アメリカ人はスポーツの才能に頼りすぎるようになった」ということ。other kinds of achievement「他の分野での功績」には関心がないことになる。よって、d less が正解。

**全訳** .....

アメリカでは、今日黒人が陸上競技だけでなくバスケットボール、フットボール、野球において優位を占めているということは周知の事実である。プロであれ大学であれ、どのチームの先発メンバーを見ても、ちょうど同じことがわかるであろう。このような状況になったのはほんの50年前、ジャッキー・ロビンソンがメジャーリーグ初の黒人プレーヤーとなった時である。黒人も白人も大半の人は、スポーツがアメリカの黒人にとってよいものであった、ということに同意するであろう。①スポーツは、人種差別によって他の分野では与えられないような成功への機会を、黒人に与えてきたのである。スポーツは、多くの黒人家族が貧困から抜け出すのを手助けしてきた。スポーツの能力のおかげで、スラム街から抜け出すことができた黒人の若者は、数え切れないほどいる。

しかし、最近のベストセラーで、我々が考えているほど実際にスポーツが黒人にとって有益なものであるかどうかが問われている。そのベストセラーとは、*Darwin's Athletes: How Sport Has Damaged Black America and Preserved the Myth of Race* である。著者ジョン・ホバーマン氏は白人である。アフリカ系アメリカ人にとってスポーツはあまりにも重要なものとなりすぎてしまった、と彼は主張している。スポーツは黒人の若者の間に反知性主義的考えを広める手助けをしてしまった、と論じている。ホバーマン氏が書いているように、長い目で見れば、このことはますます情報化が進む社会において悲惨なものとなるであろう。さらに、若いアフリカ系アメリカ人はスポーツの才能に頼りすぎるようになった。他の分野での功績にはさほど興味がないのである。ホバーマン氏が信じていることであるが、さらに悪いことに、黒人のスポーツ選手は固定観念になってしまった。今日、白人は黒人のことをスポーツ選手か犯罪者のどちらかであるとみなしているのであって、他のものとは考えていないのである。ホバーマン氏が書いているように、実際アメリカ白人の頭の中では、黒人のスポーツ選手と犯罪者が一緒くたになって、「一つの恐ろしい人物像」となっている。

予測できるように、ホバーマン氏の著書はかなりの論争を巻き起こしている。黒人批評家は、ホバーマン氏はいくつかのすばらしい指摘をしているが、すべてのうちで最も重要なものを見落としている、と言っている。②つまり、黒人の若者たちが成功したのは、類まれな生まれながらの才能があったからではないということである。彼らはまったく厳しい練習、訓練、決断によって成功を収めたのである。

**注** .....

ℓ. 1 ◇ It is common knowledge that

S V C

blacks now dominate basketball, football and baseball in America,  
S V as well as track and field

O'

- common 「ありふれた；よく知られた」
- dominate 「～を支配する；～で優位を占める」
- as well as ～ 「～だけでなく」
- ℓ. 2 ◇ starting lineup 「先発メンバー；スターティングメンバー」
- ℓ. 3 ◇ as much 「ちょうど同じだけ；ちょうどそれだけ」
- ℓ. 4 ◇ the Major Leagues 「メジャーリーグ」
- ℓ. 5 ◇ agree that … 「… に賛成する〔同意する〕」
- ℓ. 7 ◇ help (to) *do* 「… するのを手助けする」
  - ◇ raise 「～を引き上げる；～を昇進させる；～を出世させる」
  - ◇ athletic 「競技の；スポーツ選手としての」
- ℓ. 8 ◇ countless 「無数の；数えきれないほどの」
  - ◇ escape 「～から逃れる」
- ℓ. 9 ◇ bestseller 「ベストセラー」
  - ◇ be beneficial for ～ 「～にとって有益な〔有利な〕」
- ℓ. 11 ◇ claim that … 「… と主張する〔言い張る〕」
- ℓ. 12 ◇ argue that … 「… と主張する」
  - ◇ spread 「～を広める〔普及させる〕」
- ℓ. 13 ◇ anti-intellectual 「反知性主義の；知識人に反対する」
  - ◇ attitude 「考え方；態度」
  - ◇ in the long run 「長い目で見れば；結局は」
- ℓ. 14 ◇ increasingly 「ますます；だんだん」
  - ◇ Furthermore 「さらに；その上」
- ℓ. 15 ◇ come to *do* 「… するようになる」
  - ◇ rely on ～ 「～に頼る」
  - ◇ gift 「才能」
- ℓ. 16 ◇ What's worse 「さらに悪いことには」
  - ◇ athlete 「スポーツ選手」
- ℓ. 17 ◇ stereotype 「固定概念；典型」
  - ◇ not much else : whites do not see blacks as much else と考えればよい。
  - ◇ in fact 「実際は；事実上」
- ℓ. 18 ◇ merge into ～ 「～に溶け込む」
- ℓ. 20 ◇ As you might expect 「予測できるように；予測できるかもしれないが」
  - as は関係代名詞。
  - ◇ cause 「～を引き起こす」
  - ◇ controversy 「論争；論議」
  - ◇ critic 「批評家；評論家」

**[3]**

**解答**

**A**

**Script**

**CD 1**

M : Excuse me. We're from out of town and don't know our way around here. I wonder if you could tell us how to get to the Sword Museum.

W : The Sword Museum? As a matter of fact, I could because I live around there.

M : According to this map it should be right around here.

5 W : It is, but if you depend on that map you won't get there before closing time.

M : So how do you get there from here?

W : Well, I live around here, and if I had time I could take you there myself, but I'm on my way to work and have a subway to catch. But the short way is complicated, so let me tell you the clear way, though it will cost you a couple of minutes.

10 M : Okay.

W : Go back the way you came. When you come to the first traffic light — it was at the last big intersection — turn right without crossing the street. You'll soon come to another light. Turn right again there. Go all the way down that street until you come to a "T". It's only one block, though a little long one. When you reach the end, turn left.

15 You'll find the museum a block down on the left, on the far corner.

M : Thanks a lot.

W : Don't mention it. And I hope you enjoy your stay in Tokyo. [225 words]

**全訳**

M : すみません。よそから来たのでこの辺りのことがよくわからないんです。Sword Museum への行き方をお教え頂けないでしょうか？

W : The Sword Museum ですか。実は私はその辺りに住んでいるので、ご案内できますよ。

M : この地図によると、博物館はちょうどこの辺りにあるはずなんですけど。

W : そうですね。でももしこの地図に頼ってそこに行くのなら、きっと閉館時間に間に合いませんよ。

M : ではここからどうやって行けばいいんですか。

W：うーん。私はこの辺りに住んでいるので、時間さえあれば私がそこまでお連れするんですが、今は仕事に向かっているところで、これから地下鉄に乗らなくてはいけないのです。近道は複雑なので、数分かかるとは思いますが分かりやすい方の道をお教えしますね。

M：ええ。

W：まず来た道を戻ってください。最初の信号のところまで出たら、——さっきの大きな交差点のところ——道を渡らずに右に曲がってください。そうするとすぐに次の信号が見えます。そこでもう一度右に曲がってください。T字路に出るまでまっすぐ進んでください。少し長いですが、たったの1ブロックです。突き当たったら、左に曲がってください。1ブロック進んだところの左手奥の角に博物館が見えますよ。

M：どうもありがとうございます。

W：どういたしまして。東京滞在を楽しんでくださいね。

#### 【4】

##### 解答・解説

(1) had died

「過去のある時点より～前」を表すには過去完了を用いる。「(ボブを訪問した時点より)3年前に彼は亡くなっていた。」ということになるから、過去完了にする。

(2) was taking

「シャワーを浴びていたらケータイが鳴った(ケータイが鳴ったとき私はシャワーを浴びていた)。」過去の進行中を表す。

cf. S was doing (was about to do) when SV. 「Sが～していた(しようとしていた)その時SV」

(3) drinks / drank

日常的な行為は現在形で表すが、今日行なった事実は過去形となる。

(4) has been suffering

「先週以来」とあるため現在完了形にする。また動作の継続を表す場合は進行形にする。

○ pneumonia 「肺炎」

(5) will have completed

「来年のこの時期までに完成してしまっているだろう。」と未来の時点での完了を表す形にする。

(6) stays

一般的、普遍的な内容は現在形で表す。

(7) has been courting / has not proposed

現在まで2年間継続している行為なので現在完了進行形にする。現在まで行われていない行為は現在完了形にする。

○ court 「言い寄る；求愛する」

**[5]**

**解答・解説**

(1) **d**

「ステーキブンは休暇中です。彼はパリに行きました。」

- パリに行ったのは過去のはずである。has been to … は「～へ行ったことがある」「～へ行ってきたところ」の意味のため不可。visit は他動詞のため to と共に用いることはできない。

(2) **b**

「もし注文した製品が明日までに届かなかったら私たちにお知らせください。」

- by tomorrow 「明日までに」とあるので未来の時点での完了を表すが、「時・条件を表す副詞節では未来（完了）の事柄も現在（完了）で表す」という決まりがある。

(3) **b**

「あなたの夢が実現する時が来るでしょう。」

- when は関係副詞で time を先行詞とする形容詞節となるため未来表現を用いればよい。

(4) **c**

「マイケルは妻が来るまで玄関で待とうと決めた。」

- 妻が来るのも過去の話であるから **c** came で良い。

(5) **d**

「私たちの誕生日プレゼントを気に入ってくれると良いのですが。」

- 未来のことなので will を選ぶ。意味内容から考えて、**b** 「～することになっている」や **c** 「～する予定である」は選びにくい。**a** の be going to do は、予め決まった未来を表し、「～するつもりである」等の意味になるため文意にそぐわない。

(6) **c**

「最近トーマスと会った?」「いいえ、でも土曜日に彼とランチをするわ。」

- 最近会っていないが土曜日にランチをするというのは、近い未来のことを表している。そのため、「近い未来の計画、予定」などを表す現在進行形を選ぶ。

(7) **d**

「少し休んだらどうなの? 最近働きすぎですよ。」

- lately 「最近」は現在完了を伴うことが多い（過去時制とも用いることがある）。
- cannot have done は「～したはずがない」という意味になるため本問では不可。

(8) **a**

「その頃までに地震はおさまっていたが、村人たちはまだおびえていた。」

- by the time (that) SV 「SがVする頃までには」の形ではないことに注意。
- by that time で「その頃までに」という前置詞句となり、the earthquake 以降は主節となる。



【6】

解答・解説

(1) It / since / have passed / married her / ago

「彼が彼女と結婚して5年になる。」

(2) not be long / gets

「彼女はまもなくこの困難を乗り越えるでしょう。」

○ It will not be long before SV (現在形)「まもなく～」

(3) not until / that

「私たちの夕食が終わって初めて彼女が入ってきた。」

○ It is not until A that B「Aになって初めてB」

(4) You / not seen

「全然見かけなかったね。」

○ stranger「見知らぬ人」

(5) had intended

「今日までにクリスマスカードを送るつもりだったのだが、まだ書き忘れたことがある。」

○ hope / expect / think / intendなどを過去完了で用いると、希望・意図などが実現しなかったことを表す。

## 2章

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

人格は評判と非常に異なるものである——両者はしばしば混同されることもあるが。評判とは人がこうだと思われているものであり、人格とはその人そのものである。前者は意見で、後者は現実である。評判に対して人は心から無関心でいることができるかもしれないが、人格に対してそれは無理である。

B.

#### 全訳

小さな子供たちは、過ちを自分で見つけて直すことができる。しかし、過ちに気づくことができるという子供のこの能力、つまりそれを見つけて直すことができるという能力について、我々が覚えておかななくてはならないのは、それができるようになるには時間がかかるということ、そして圧迫や不安の下では、その能力は決して発揮されないということである。

C.

#### 全訳

今日、多くの人々は、巨大な現代社会においては、個人にできるような重要なことは何もないという考え〔印象〕を抱いているように思われる。これは間違いである。個人は、もし人類愛と勇気と忍耐に満ちているならば、非常に多くのことをこなすのである。

#### 【2】

A.

#### 解答・解説

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) no difficulty

#### 全訳

多くの子供がまだ靴ひもを結ぶにも苦勞している年頃に、5歳のジョージ・ダニエルズは父がサンダーランドにある家を出るのをいらいらしながら待っているのだった——そして父が出かけると、暖炉の上にある先祖伝来の時計に向かって飛んでいくのだった。①数分のうちに彼は時計の裏ぶたを開け、時計の機械を床の上に散らばせたものだった。しかし、②父が仕事から帰ってくる時までには、時計は本来の場所に戻され、前と同じように正確に時を刻んでいるのであった。その間ジョージは時計の側に何食わぬ顔で座り、その日学んだ事を考えているのだった。「その年齢の時、モーツァルトはピアノを弾くのに苦勞しなかった。」と今49歳になっているダニエルズは言う。「私は機械を扱うのに苦勞しなかった。」

注

- ℓ. 1 ◇ have trouble (in) ...ing 「...するのに苦労する」
  - ◇ George Daniels 「ジョージ・ダニエルズ [英国の著名な時計師]」
- ℓ. 2 ◇ would : 過去の習慣を表す用法 「...したものだった」
  - 文中の would はすべてこの用法
  - ◇ impatiently 「我慢できずに ; いらいらして」
- ℓ. 3 ◇ head straight for ~ 「~へ真っ直ぐに向かう」
  - ◇ mantelpiece 「マントルピース」 [暖炉の全面, 側面の飾り]
  - ◇ in minutes 「数分のうちに」
  - ◇ have
 

{	its back off
	O C
}	and the works scattered
	O C

    - 「時計の後ろをはずし, 機械をばらまく」
    - この the works は「時計などの機械部分」を意味する。
    - have O C 「OをCにする」
    - off : ここでは「はずれて ; とれて」の意。
    - have O C (done) 「①Oを...してもらう ②Oを...される ③Oを...してしまう」
    - scatter 「まき散らす ; ばらまく」
- ℓ. 4 ◇ by the time ~ 「~する時までには」
- ℓ. 5 ◇ in place 「本来あるべき場所に」
  - ◇ ticking away as accurately as ever 「これまでと同じように正確に時を刻んで」
  - 付帯状況を表す分詞構文。
  - tick away 「時を刻む」
  - as ~ as ever 「①相変わらず~で ②とにかく ; できるだけ ③ (as ~ as ever lived で) 古来稀な ; きわめて」
  - ◇ while ~ 「~の間に」
- ℓ. 6 ◇ innocently 「無邪気に ; 何食わぬ顔で」
  - ◇ pondering ~ : 付帯状況を表す分詞構文。
  - ponder 「~を熟考する」
  - ◇ have difficulty (in) ...ing 「...するのに苦労する」

B.

**解答** .....

- (1) 「全訳」の下線部④, ⑤参照。
- (2) スポーツの勝敗で集団の威信が問われると思うやいなや, 人間の持つ最も野蛮な闘争本能が働く, ということ。(50字)
- (3) 愚かな争いに激怒し, 走ることや跳ぶことやボールを蹴ることが国民的美徳の試金石であると, 少なくとも短期間は真剣に信じる, 観客と観客の影にある国民の態度。(75字)

(1)

①◇ when I hear people saying that ..., and that ~ 「人々が...ということと~ということ  
 と言っているのを聞くとき」

- hear O ...ing 「O が...しているのを聞く」
- saying は2つの that 節を目的語にとっている。  
 文末まで2つ目の that 節に含まれることに注意する。

◇ if only ~ 「~しさえすれば」《仮定法過去》

- 帰結節は they would have no inclination 以下

◇ common peoples 「一般国民」

- 「人々」の意の場合は複数形にならない

◇ inclination to do 「...したいという気持ち, 意向」

cf. be inclined to do 「...したい気がする」

②◇ Even if one didn't know from concrete examples (the 1936 Olympic Games, for instance) that ~ 「たとえある人が具体的な例 (例えば1936年のオリンピック) から~ということを知らないとしても」

- even if ~ 「たとえ~だとしても」《仮定法過去》

帰結節は one could deduce 以下。

- that 節は know の目的語になる名詞節であり, 間に from concrete examples (the 1936 Olympic Games, for instance) が挿入されている形。

- concrete 「①具体的な ②現実の; 明確な ③固体の」

- for instance 「例えば」

◇ lead to ~ 「~に至る; 導く」

◇ hatred 「憎悪」

◇ one could deduce it from general principles 「人は一般の原則からそれを推測することができるだろう」

- 仮定法の帰結節

- deduce A from B 「B から A を推測する」

- it : that international sporting contests lead to orgies of hatred (国際的なスポーツ競技会が過度の憎悪を導くこと) を指す。

- general 「①全体的な ②一般的な ③概略の」

- principle 「①原理; 原則 ②主義; 信念

cf. principal 「主要な *adj.*; 社長; 校長 *n.*」

発音は principle と同じ

(2) 前文の内容の一部 (ℓ. 10 as soon as the question of 以下) を受けている。

(3) 'the significant thing is not A but B' (重要なことは A ではなく B である) とあるので, B の内容を字数内で訳出すれば良い。

[not A but B 「A ではなく B」]

A : the behaviour of the players

全訳

④ スポーツが諸国家間の親善を生みだすとか、世界中の一般国民が互いにサッカーやクリケットの試合で戦うことができさえすれば、戦場で戦いたいという気持ちにはならないだろうなどと人々が言っているのを耳にすると、私はいつもたいへん驚いてしまう。 ⑤ 国際的なスポーツ競技会が過度の憎悪に至ることを、具体的な例（例えば1936年のオリンピック）からは知らないとしても、一般的原理からそれを推論することは可能であろう。

今日行われているほとんど全てのスポーツは競うものである。勝つために競技するのであり、勝つために最善を尽くさなければ試合にはほとんど意味がないのだ。敵味方に分かれても郷土愛という感情には関わりのない村のサッカー場では、楽しみや運動のためだけに競技することは可能である。しかし威信の問題が起こるとすぐに、つまり、もし試合に負ければ自分そしてもっと大きな集団の面目がつぶされると感じるとすぐに、人間の持つ最も野蛮な闘争本能が頭をもたげてくるのだ。学校のサッカーの試合であれ、競技した経験のあるものなら誰でも、これを知っている。国際水準でのスポーツは、率直に言うとも模擬戦争だ。けれども重要なのは選手の行動ではなく、こうした愚かな争いに激怒し、走ることや飛ぶことやボールを蹴ることが国民的美徳の試金石であると、少なくとも短期間は真剣に信じ込む、観客と観客の影にある国民の態度なのである。

注

- ℓ. 7 ◇ practised は sports を修飾する過去分詞 [= the sports which are practised]  
 ◇ competitive 「競争の」 cf. competition *n.*  
 ◇ You play to win : 目的を表す副詞用法の不定詞  
 ℓ. 8 do your utmost to win も同様。
- ℓ. 8 ◇ utmost 「最大の」  
 ◇ where ... は village green に補足的に説明を加える非制限用法の関係副詞節。
- ℓ. 9 ◇ pick sides 「敵・味方に分かれる」  
 ◇ patriotism 「愛国心」  
 ◇ it is possible to ... : it は to ... を代表する形式主語。  
 ◇ simply は for ~ にかかることに注意。「楽しみと運動のためだけに」
- ℓ. 10 ◇ as soon as the question of prestige arises は直後の as soon as you feel that you and some larger unit will be disgraced if you lose でさらに具体的に言い換えられている。  
 ○ as soon as ~ 「～するとすぐに」  
 ○ prestige 「名声；威信」  
 ○ arise 「起こる；生ずる」  
 ○ disgrace 「～の恥となる、名を汚す」
- ℓ. 11 ◇ savage [sáevɪdʒ] 「野蛮な」  
 ◇ combative instincts 「闘争本能」
- ℓ. 12 ◇ arouse 「～を起こす；刺激する」
- ℓ. 13 ◇ mimic warfare 「模擬戦争」

- ℓ. 14 ◇ the attitude of the spectators; and, behind the spectators, (the attitude) of the nations who … と補って考える
- ◇ the nations who work themselves into furies over these absurd contests, and seriously believe (挿入) that … 「これらの愚かな争いに激怒し, ~ということを真剣に信じ込む国民」
- work O into ~ 「O を徐々に~の状態にする」
  - fury 「激しい怒り」
  - absurd 「ばかげた」
  - that ~ は believe の目的になる名詞節。
- ℓ. 16 ◇ at any rate 「とにかく; 少なくとも」
- ◇ test of ~ 「~の試金石; ~を試すもの」
- ℓ. 17 ◇ virtue 「美德; 長所」

### 【3】

#### 解答・解説

- (1) I lived in Germany for three years.
- 「今までドイツに3年間住んでいます。」の場合は “I have been in Germany for three years.” 等と現在完了も使えるが, 「かつて3年住んでいた」場合には単純に過去時制で表せば足りる。
- (2) Last year we had the hottest summer in thirty years.
- 「~年ぶりに」を for the first time in … years と表すことを参考に考える。
- (3) We'll soon be flying over Mt. Fuji.
- 未来進行形は当事者の意思とは関係無い「自然の成り行き」を表すことがある。
- (4) This summer we have had very little rain so far.
- 現在完了形で書く。so far は「これまでのところ」という意味の連語。
- (5) It will not be long before my parents travel to Europe.
- before 節は未来の事柄だが副詞節なので現在形にする。
  - It will not be long before + 現在形で, 「まもなく~だろう。」
- (6) We had not been waiting half an hour before the bus came.
- 「バスが来る前, 30分も待っていなかった」が直訳となる。
- (7) The man was about to leave the house when a policeman showed up.
- be about to do when SV 「~しようとした時, SV」

### 【4】

#### 解答・解説

- (1) I wish I hadn't told you.  
「言わなければよかった。」
- (2) If I knew her mail address, I could e-mail her personally.  
「メールアドレスを知っていれば, 個人的にメールができるのに。」

(3) I would have been seriously injured if I hadn't been wearing a seatbelt.

「シートベルトをしていなければ、重傷を負っていただろう。」

(4) I could go out if I hadn't had my purse stolen yesterday.

「昨日財布を盗まれていなかったら（今日）外出できるのに。」

○時制がずれていることに注意。

## 【5】

### 解答・解説

(1) rains [snows / hails / storms など]

「もし明日雨（雪、ひょう、嵐など）になったら行かないです。」

○直説法の条件節の問題。3単現のsを忘れないように。

(2) unless

「駅まで走らない限り、列車に乗り遅れてしまいますよ。」

○ unless SV 「SがVしない限り」

(3) If

「もし私が鳥ならばなあ。」

○ If only = I wish

(4) that

「もしあなたがクローン人間だったら、自分についてどう思うでしょうか。」

○この that は省略可能。Suppose (that) SV = Supposing (that) SV = Providing (that) SV = Provided (that) SV 「もしSがVなら〜。」本問のように suppose と supposing は仮定法の条件としても使用されるが、providing と provided は直説法の条件節を導く。

(5) Had / not been for ( If / hadn't been for )

「もしあなたの助けがなかったら、深刻な過ちを犯していただろう。」

(6) Had

「もし若いときに一生懸命勉強していたら、今頃は幸せな暮らしを送っているだろう。」

○条件節は昔の事柄のため仮定法過去完了になるが帰結節は現在の事柄のため仮定法過去になる。

(7) Should

「万が一、その企業が破綻すれば、世界経済への影響は深刻なものになりかねないでしょう。」

○ If S should ... = Should S ... 「万が一〜なら」

(8) Were

「万が一、インターネットが消滅したら、日本は昭和の時代に戻ってしまうだろう。」

○ If S were to do, 「万が一〜なら」

(9) were

「彼はいわば歩く辞書だ。」

○ as it were = so to speak 「いわば」

(10) went

「あなたの子供はそろそろ寝る時間でしょう。」

- It's (high) time (that) の後には仮定法過去が来る。
- (11) if (though)
- 「まるで違う惑星に来てしまった感じがした。」
- as if SV = as though SV 「まるでSがVであるかのように」SVには直説法だけでなく仮定法も来る。
- (12) who
- 「その財産を相続することをあてにしているのなら、全くの愚か者であろう。」
- who の先行詞は He であり、who 以下が条件部の役割をしている。
- (13) A
- 「もう少し注意していたら、その重大事故は防げたであろう。」
- 主語に条件が含まれている。With a little more care, you would have prevented the serious accident. の形と区別すること。
- (14) to
- 「もし彼女がフランス語を話すのを聞いたら、あなたは彼女を外国人だと思うでしょう。」
- to hear her speak French に条件が含まれている。
- (15) would
- 「毎日故障する機械ならば役に立たないでしょう。」
- 関係詞節に条件を含む。
- (16) heard
- 「たとえ針が落ちたとしても聞こえたかもしれないくらい静かだった。」
- (17) otherwise (or)
- 「私たちは早く家を出た。さもなくば劇場で良い席を得られなかっただろう。」
- otherwise 「さもなくば」という意味で仮定法の条件になる。or にも同じ用法がある。
- (18) should
- 「私は彼に、借りたDVDを返してくれるよう強く言った。」
- demand のような提案・要求を表す動詞や必要性・重要性を表す形容詞の後には(米)では仮定法現在の形が来るが(英)では should を用いることが多いとされる。本文章は(英語)となる。
- (19) be
- 「会議は来月まで延期されることが提案された。」
- suggest も提案を表す動詞であるからその内容を仮定法現在で表す。本問は(米語)である。
- (20) come
- 「父親が入ってくるといけないので、彼女はドアに鍵をかけた。」
- lest や for fear の後にも仮定法現在(米)ないし should (英)を用いる。lest は固い表現なので英作文では for fear や in case, もしくは so that S may not …等を用いたほうが良い。



**【6】**

**解答・解説**

(1) **b**

「たとえ私が彼女の国に行っていたとしても、ともかく彼女に会えたであろう可能性はほとんどなかった。」

○条件節が過去完了であることから考える。

(2) **c**

A：「今朝会議に行くの遅れちゃった。」

B：「ああごめん。もし行くて知っていたら車に乗っていったのに。」

○条件節は過去完了形である。give A a ride「車に乗せる」

(3) **b**

A：「英語の先生はどんな感じでしたか。」

B：「もし彼の助けがなかったら、高校を卒業できなかつたろうね。」

○What “was” とあるため昔の事柄であることに注意。

### 3章

#### 問題

【1】

A.

#### 解答

- (1) at
- (2) 「全訳」の下線部①, ②参照。
- (3) like

#### 解説

(1)

たとえば「私の兄はマサチューセッツ工科大学で言語学を研究しています。」という場合、My brother studies linguistics *at* Massachusetts Institute of Technology. のように、前置詞は *at* が用いられる。これと同じように、「ミシガン大学の学生」も a student at the University of Michigan としなければならない。なぜならば、a student = a person who studies であるので、a student ( ) the University of Michigan = a person who studies at the University of Michigan にしなければならないからである。

(2)

- ①◇ Everyone feels pressured to wear the same type of outfit.
  - feel pressured to *do* : pressure O to *do* で「Oに(圧力をかけて)～させる」という意味。feel pressured to *do* は、「(主語が圧力をかけられて)～しなければならないように感じる」という意味。
  - outfit 「(特定の目的のための)一揃いの服装」  
ここでは、「就職活動に必要なスーツ一式」のこと。
- ◇ If I were an interviewer, I wouldn't give a high rating to a student who couldn't assert his individuality.
  - 仮定法過去の文であることに注意。
  - rating 「評価」
  - who couldn't assert his individuality は先行詞 a student を修飾している。

②◇ clothing 「(集合的に)衣類」

◇ not as ~ as ... 「…ほど～ではない」

(3)

look ( ㉞ ) an executive, look ( ㉞ ) students は、いずれも look ( ㉞ ) + 名詞となっている。She looks happy. のように、形容詞を用いる場合は look + 形容詞であるが、名詞が続く場合 look like + 名詞となる。

全訳

誰もが同じような服装をしていることに怒りを感じる学生もいる。ミシガン大学の学生ルー  
ス・ティベットは「①みんな同じ服を着なければならぬように感じている。私が面接官だっ  
たら、自分の個性を主張できない学生にはいい評価は与えないけどね。」と言った。

服装について企業の面接官は何と言うか。ニューヨークの大銀行の採用面接官アルフレッド・  
パーソンズ氏は「②服装は学生が思っているほど重要ではありません。学生はこざっぱりして  
いるべきです。スーツを着用するのはいいことですが、会社の経営幹部のように見えるように  
と心配する必要はありません。学生らしい格好をすべきです。」と言った。

B.

解答

- (1) 「全訳」の下線部①, ③参照。  
(2) 学生から尊敬されることを期待するという理由のために  
= because he expects respect from them

全訳

アメリカの大学の授業では、①他の国で守られているようなある種の礼儀正しきよりも、能  
率的で率直な表現のほうが尊重される。教授は、自分のした説明が理解できたかどうか学生に  
尋ねるとき、「はい」または「いいえ」という率直な返事を望んでいる。教授は学生からの敬  
意を期待するが、そのために、答えが明らかに「いいえ」であるのに、彼らに「はい」と答え  
ることを望んだりもしない。③また教授は、学生が理解できないと認めることによって、自分  
が賢くないことを示すことになるのではないかと恐れて、「はい」と答えることも望まないの  
である。

C.

全訳

大衆がある人物の声を聞き、その言い分とその言い方にじっと耳を傾けることができれば、  
必ずというわけではないが通例、真実の響きは耳にとらえられるし、かなり誤りなく、ペテン  
師と誠実な人間との選り分けができようと私は当時信じていたが、今でもそう信じている。

D.

全訳

④幼児は1歳にもならないうちに、今見えているものがその後で取り去られても、ずっと存  
在し続け、やがて戻ってくることを発見する。これは、ものは見えなくなっても、忘れられな  
いようになる人間としての成長の最初の大きな歩みである。

何歳が大きくなると、子供は第2のもっと大きな進歩をとげる。⑤目の前にないもののイメ  
ージを作るようになり、そのイメージを使って考え、それを通して未知の世界に入ってゆくこと  
ができるようになるのである。その瞬間に子供は、すべての想像的思考への門をくぐることに  
なるが、この中には論理的に考える時に使われる思考過程も含まれている。

【2】

解答

- (1) ① c    ② a    ③ c  
 (2) e  
 (3) city-living engineers, doctors, physicists, computer scientists, and so forth  
 (4) c  
 (5) 「全訳」の①～⑥参照。

解説

- (1)  
 ① far from ～ 「①～から遠い《距離的・時間的に》②決して～ではない」  
 a 「すでに」  
 b 「～から遠い」《距離的に》  
 c 「全く…ない」  
 d 「本当に」  
 ② roughly speaking 「大ざっぱに言えば」  
 a 「正確さに留意せずに言う」と  
 b 「遠慮せずに言う」と〔without reserve 「遠慮なく」〕  
 c 「はっきり言う」と〔definitely 「はっきりと；明確に」〕  
 d 「大げさに言う」と〔exaggeratedly 「大げさに」〕  
 ③ to the extent that … 「①…という程度まで ②…である限り」  
 a 「…だけれども」  
 b 「たとえ…でも」  
 c 「…する限りにおいて」  
 d 「1つには…だから」  
 (2) 下線部 (ア) の but は only と同意。  
 a 「彼は死んだも同然だ。」  
 ○ all but ～ 「①～の他はみな ②ほとんど (= almost) *adv.*」  
 b 「これは日本以外では行われていないゲームだ。」  
 ○ except と同意の前置詞 but  
 c 「その仕事が嫌なのではなくて、時間が無いのだ。」  
 ○ not ～, but … 「～ではなく…」 / 接続詞の but (but = instead)  
 d 「例外のない規則はない。」  
 ○ 疑似関係代名詞の but / 否定語を先行詞として 「…でない～」 (= that … not ～)  
 e 「彼はこれをするのに数分しかかからなかった。」  
 ○ only と同意の副詞 but  
 ○ ～ (事) take 人… (時間) 「～をするのに人が… (時間) を要する」  
 (3) 前行の who と共通のものを先行詞とする。  
 (4) 様態を表す接続詞の as 「～のように」  
 a 「彼女は裸足だったが、それは当時の習慣だった。」

○前文（の一部）を先行詞とする疑似関係代名詞の用法。

**b** 「あなたの主治医として、食事量を減らすよう忠告します。」

○前置詞の as 「～として」

**c** 「あなたの好きなように歌ってもいいですよ。」

○様態を表す as 「～のように」

**d** 「彼女は私と同じくらい本を持っている。」

○ as ～ as … 「…と同じくらい～」／前の as は副詞，後の as は接続詞

**e** 「まったくお金を持っていなかったのので、あなたに電話することができなかった。」

○理由を表す接続詞の as 「～なので」

(5)

①◇ culturally *adv.* = in terms of culture 「文化という点では」

*cf.* in terms of ～ 「～という（観）点で（は）」

◇ have at least as much in common with Westerners as with their own grandparent  
「少なくとも彼等自身の祖父母との共通点と同じくらい，西洋人との共通点を持っている」

○ have ～ in common with … 「…と～を共通に持つ」

○ as ～ as … 「…と同じくらい～」

○ at least 「少なくとも」

②◇ The conditions under which we live

< we live *under* the conditions

◇ impose limits on ～ 「～に制約を課す」

◇ who we can be 「我々のなり得る人格」

③◇ standardization *n.* 「標準化；規格化」 < standardize *vt.*

◇ cannot help …ing 「…せざるを得ない」

○ help = avoid

◇ alike *adj.* 「似ている；同じような」

④◇ The 比較級～，the 比較級… 「～すればするほど…」

○ The more developed the technology (is) , the more powerful the tools (are) と be 動詞が省略されていることに注意。

⑤◇ in this way 「このように」

○前文の to think of technology merely as a set of tools or machines を受けた表現

◇ miss *vt.* 「見逃す」

◇ aspect *n.* 「局面；状況」

◇ how our technologies contribute to ～ 「どのように我々の技術が～に貢献するか」

○ contribute to ～ 「～に貢献する」

◇ make us what we are 「我々を現在の姿にする《直訳》」→「人間を現在のようにする」

○ what S is 「Sの現在の姿」

*cf.* what S was [used to be] 「Sの昔の姿」

⑥◇ the point is that … 「要するに…だ；重要なのは…だ」

◇ not simply …; it also ~ 「…ただではなくそれは～」

< not only A but also B 「AだけではなくBも」

◇ constitute *vt.* 「構成する；一部を成す」

◇ an environment within which we act 「我々がその中で行動する環境」 < we act within an environment

◇ determine *vt.* 「～を決心する，決定する」

**全訳**

20世紀の最も劇的で重要な出来事のうちの1つは、文化的な多様性が急速に消失したことである。この過程において重要なのは、村に住む無教養の遅れた民族が、教養のある、発展段階にある、場合によっては科学技術的に複雑な経済機構の一員へと変化をとげてきたことである。この変貌はもちろん完了には程遠いが、農夫や村人だった先祖からほんの1世代か2世代しか離れておらず、①文化的に自分自身の祖父母との共通点と少なくとも同じくらい西洋人との共通点を持っている、都市在住のエンジニアや医者や物理学者やコンピュータ科学者などを見いだすのは、どんどん普通のことになってきている。②我々が生きる周りの状況によって、我々がどのような人間になり得るのかということは制約される。③これらの状況が規格化されれば、我々は似通わざるを得ないであろう。

状況の規格化に関する重要な局面の1つは、科学技術の規格化である。「科学技術」は難しい概念であり、ここで十分に説明することは無理であろう。しかしながら大雑把に言うと、科学技術とは道具を使ってある目的を達成することである。すべての人間集団は道具を使う。つまり、すべての人間集団はある種の科学技術を用いている、ということになる。④科学技術が発達していればいる程、道具はより強力なものになる。

このことに示唆されるように、科学技術を単なる一連の道具や機械と見なすのは誤りである。⑤もし我々が科学技術をこのように見なせば、人間が現在のものであるのに、科学技術がどのように貢献しているかということの重要な側面を見逃してしまう。なぜならば、そのように理解すれば、科学技術は世の中の一連の物事にすぎない、つまり環境のまた別の特徴でしかないということになってしまうからである。それならば科学技術は、天候や騒音や雷が我々に影響を与えるのと同じように、外的にしか我々に影響を与えないということになる。恐らく機械製品の中での生活は、森の中の木や川に囲まれた生活とは違うふうに我々の精神を決定づけるだろう。⑥重要なのは、科学技術は我々がその中で行動する環境を構成するだけではなくて、我々の行動の仕方をも決定するということである。さらに言うと、我々が科学技術を物事をする方法と見なす限り、それをコントロールすることのできない何らかの外的な力と見なしてしまうような過ちは冒さないであろう。もし我々が目的を達成するために人間集団としての行動のしかたをコントロールできるならば、我々は科学技術をもコントロールすることができるのである。

**注**

ℓ. 1 ◇ the rapid disappearance of cultural varieties

○ cultural varieties disappeared rapidly の名詞化表現／主格関係を表す of

ℓ. 3 ◇ transformation of A into B 「AのBへの変化」

○ transform A into B の名詞化表現／目的格関係を表す of

- ◇ illiterate *adj.* 「文盲の；無学の」 ⇔ literate
- ◇ primitive *adj.* 「原始的な；素朴な；遅れた」
- ◇ peoples 「民族；国民」
- ◇ participant *n.* 「参加者；関係者」 < participate *vi.*
- ℓ. 5 ◇ complete *adj.* 「全部の；完全な；完成した」
  - ◇ it is increasingly more common to find …
  - it は to … を受ける形式主語
  - increasingly *adv.* 「ますます；だんだん」
  - ◇ city-living engineers, doctors, physicists, computer scientists, and so forth は後の 2つの who 節によって修飾されている。
  - physicist *n.* 「物理学者」 < physics *n.*
  - and so forth [on] 「など」
- ℓ. 7 ◇ removed from ~ 「～から隔たった；～から離れた」
  - ◇ peasant *n.* 「小作農」
- ℓ. 12 ◇ I cannot hope adequately to explain it here 「それ（= 科学技術）をここで十分に説明することを私は望むことができない《直訳》」
- ℓ. 13 ◇ a technology is a method for achieving some end by means of a tool 「科学技術とは道具を用いて何らかの目的を達成する方法である」
  - end 「目的」
  - by means of ~ 「～を用いて」《手段・方法》
- ℓ. 14 ◇ Since … 「…なので」〔理由〕
  - ◇ employ *vt.* 「雇う；～を用いる；（時間・精力などを～に）費やす」
- ℓ. 16 ◇ As this suggests
  - suggest *vt.* 「暗示する」
  - this は下線部④の内容を指す
  - ◇ it is a mistake to think of technology merely as …
  - it は to think … を受ける形式主語
  - think A as B 「AをBとみなす」 = regard A as B
- ℓ. 18 ◇ For … 「というのは…だからだ」
  - 理由を表す節を導く for
  - ◇ so understood 「そのように理解されれば」
  - 条件を表す分詞構文
  - so は先行する語句を受ける用法。本文のように文頭に置かれることもある。ここでは merely as a set of tools or machines を受ける。  
 < If technology is understood as merely a set of tools or machines
- ℓ. 19 ◇ nothing but ~ 「～だけ；～にすぎない」 = only
  - but = except
  - cf. anything but ~ 「少しも～でない；～どころではない」
  - ◇ that is (to say) 「つまり」

- ◇ just another feature of the environment
- nothing but a set of things in the world の言い換え

ℓ. 20 ◇ Then 「それならば」

- 「科学技術を単なる一連の道具や機械とみなすならば、科学技術は世界における一連の物事にすぎない、つまり単なる環境のまた別の特色ということになる」という内容を受けている。

- ◇ affect *vt.* 「影響を及ぼす」
- ◇ externally *adv.* 「外的に」 ⇔ internally

ℓ. 21 ◇ no doubt … 「おそらく；疑いもなく」

- ◇ shape *vt.* 「決定する；方向づける」

ℓ. 25 ◇ avoid doing 「…しないようにする」 [× avoid *to*…]

- ◇ fall into the trap of doing 「…するというわなに陥る」
- ◇ some powerful external force over which we have no control 「我々がコントロールすることのできない何らかの外的な力」 < we have no control *over* some powerful external force

### [3]

#### 解答

- (1) F      (2) T      (3) F      (4) F      (5) F  
 (6) T      (7) T      (8) T      (9) F      (10) T

#### Script

#### CD 2

For nearly four decades beginning in the 1940s, Philippe Halsman's portraits of entertainers, artists, and politicians appeared on the covers and pages of the big picture magazines, especially *Life*. Amateur and professional photographers alike admired his stunning images. In 1958, a *Popular Photography* poll named Halsman one of the "World's  
 5 Ten Greatest Photographers." Collectively, Halsman's photographs form a vivid picture of prosperous American society in the middle years of the twentieth century.

Philippe Halsman was born in Riga, Latvia in 1906. He studied engineering in Germany before moving to Paris, where he set up a studio in 1932. His portraits of actors and authors appeared on book jackets and in magazines, and he also did fashion work. By 1936, Halsman  
 10 was considered one of the best portrait photographers in France.

In the summer of 1940, however, Paris was invaded. Halsman's wife, daughter, sister,



and brother-in-law all held French passports and were able to immigrate to America, but Philippe was a Latvian citizen and could not get a visa. For months he waited in Marseilles like many others who were forced to escape fascist Europe. Finally, with the help of Albert Einstein, who had met Halsman's sister, Halsman got permission to enter the United States. He arrived in New York in November 1940, carrying one suitcase with his camera and a dozen prints.

Halsman's big break came when he met a young model named Connie Ford, who agreed to pose in exchange for prints for her portfolio. She later showed these to the publicity people at Elizabeth Arden. They were so impressed by Halsman's photograph of Ford against an American flag that they used the image to launch a national campaign for "Victory Red" lipstick. The following year, *Life* asked Halsman to shoot a story on new hat designs, and one of these photos was chosen for the cover in October 1942. Halsman would do a hundred more covers before the magazine stopped weekly publication in 1972.

[326 words]

**全訳** .....

1940年代に始まり約40年近く、Philippe Halsmanのタレント、芸術家、政治家などの肖像写真は、特に*Life*などの有名写真雑誌の表紙になった。アマチュア、プロの写真家は同様に、彼の見事な写真を称賛した。1958年、*Popular Photography*の調査は、Halsmanを「世界でも最も偉大な写真家10人」の1人に挙げた。総じて、Halsmanの写真は、20世紀半ばの豊かなアメリカ社会を捉えた生き生きとした光景で構成されている。

Philippe Halsmanは、1906年、ラトビアのリガに生まれた。彼はパリに移る前、ドイツで工学を学んだ。パリでは1932年にスタジオを設立した。彼の俳優や作家の肖像写真は、本や雑誌の表紙に登場した。彼はまた、ファッションの仕事もした。1936年までには、Halsmanはフランスで最も優れた肖像写真家の1人とみなされていた。

しかし、1940年の夏、パリが侵攻された。Halsmanの妻、娘、妹、義理の弟は皆フランスのパスポートを保有していたのでアメリカに移住できたが、Philippeはラトビア国民だったためにビザを取得できなかった。ファシスト支配のヨーロッパから逃れることを余儀なくされた他の大勢の人々と同様に、彼は何ヶ月もマルセイユで待った。ついに、Halsmanの妹に会ったAlbert Einsteinの助力で、Halsmanは、米国に入国する許可を得た。彼は1940年11月、スーツケース1つとカメラ、10枚余りの印画だけを持ってニューヨークに到着した。

Halsmanの大ブレイクは、ポートフォリオ用のプリントと引き換えにポーズをとることに応じた、Connie Fordという若いモデルに出会ったときにやってきた。彼女はその後、これら

を Elizabeth Arden の広告担当者に見せた。彼らは、アメリカ国旗を背景にした Ford をとった Halsman の写真に大変好印象を持ち、その画像を“Victory Red”という口紅の全国キャンペーンの立ち上げに使用した。その翌年、*Life* は Halsman に新しい帽子デザインのストーリー用の写真を撮影するよう依頼し、その写真の1つは1942年10月に表紙に選ばれた。Halsman は、1972年に同誌が週間発刊をやめるまで、さらに100回、表紙を手がけることになった。

#### 【4】

##### 解答・解説

- (1) He cannot be laughed at (by us).
  - 助動詞がある場合には be 動詞に助動詞を付ける。また laugh at のような群動詞の場合には前置詞等を忘れないようにする。by us のような一般人主語は省略しても良い。
- (2) The child was not taken good care of (by anybody).
  - take good care of という群動詞を一つのまとまりと見る。「否定は前」という原則により、by nobody とは出来ない。nobody = not + anybody と分解して考える。
- (3) It was decided (by them) to send used clothes to children in poor countries.
  - to 不定詞を主語にする場合、通常は仮主語 it を置いて後置させる。
- (4) It is thought that he is great.
  - that 節を主語にする場合も通常は仮主語 it を置く。by people も通常は省略する。なお、He is thought to be great. と書いても良い。(10) 参照。
- (5) A new novel was being written by her then.
  - 進行形の受動態は be + being + done の形になる。
- (6) The window was left open by the child.
  - SVOC の受動態は目的語を主語にする。
- (7) I was made to wait outside for a while by her.
  - 使役動詞や知覚動詞を受動態にするときには原形不定詞は to 不定詞になる。
- (8) Let it be done at once.
  - 命令文を受動態にするには Let O be done. の形にする。
- (9) By whom was America discovered? / Who was America discovered by?
  - 疑問詞は文頭に置かれるため、By whom …? / Who … by? という形になる。
- (10) It is said that he died in America. / He is said to have died in America.
  - They say that ….を受動態にすると It is said that ….となる。また S is said to do. という形でも書ける。詳しくは準動詞（不定詞）で扱う。
- (11) We were much surprised at the news.
  - by + 動作主にならないもの。ある程度は覚えていく必要がある。【5】を参照のこと。

また程度等の副詞は be + done の間に入れることが多い。日本の問題集では The news surprised us much. という英文を受動態にさせる設問が多く見られるが、much を肯定で単独で用いることはほとんどなく、この設問のように a lot 等を使う。しかしながら受動態で過去分詞を修飾する場合は We were a lot surprised at the news. とは言わず、

We were much surprised at the news. となるのが普通である。

(12) The top of the mountain was covered with snow.

- be covered with … 「～で覆われている」

**【5】**

**解答・解説**

(1) **d**

「スペイン語は多くの国で話されている。」

- スペイン語を speak するのは国ではなく人々であるため by は使われない。

(2) **d**

「今日のディナーは会社が払ってくれます。」

- pay の目的語は money。例えば pay (the bill) for the dinner 等をイメージする。

(3) **b**

「山崩れで4人以上が死亡した。」

- 「山崩れという事象の中で」と考える。

cf. Three people were killed in the car accident.

(4) **d**

「その泥棒は人ごみの中で姿をくらました。」

- lose sight of という群動詞の受動態。

(5) **d**

「彼は見知らぬ人に話しかけられた。」

- speak to him の受動態。

cf. He talked me into doing it. 彼は私を説得してそれをやらせた。

(6) **b**

「彼の眼は涙であふれていた。」

- be filled with … = be full of … 「～でいっぱい」

(7) **d**

「私たちはにわか雨に遭い、ずぶぬれになった。」

- be caught in a shower 「にわか雨に遭う」, be drenched (soaked) to the skin 「ずぶぬれになる」

(8) **a**

「人はその友人を見れば分かる。《ことわざ》」

- be known by … (判断基準)

(9) **c**

「関西人は活発で、情熱的で、儉約として知られている。」

- be known for … (特徴)

(10) **b**

「テレビにも頻繁に出演するので、彼女は人々に広く知られるようになった。」

- be known to … (人々)

(11) c

「彼はその結果にひどく落胆していた。」

- be disappointed with [at ; in] … 「～に落胆する」

(12) a

「彼は私にいらついていた。」

- be annoyed with … 「～に困る ; いらいらする」

(13) d

「返却のためにこのレシートを保存してください。返却は全て 60 日以内にレシートと共に  
行わなければなりません。」

- S accompanies O. = O is accompanied by S. 「S は O に付随する」主たる事象が O で、  
S が付随事象となる。

## 【6】

### 解答・解説

(1) to

「ドアが開いていたので、彼らが私の父について話しているのが聞こえた。」

- 能動態にして考えると, As they left the door open, I heard them talking about my  
father. となる。

(2) herself

「彼の妻は、出産後面倒を見てもらえるように、両親の実家へと行った。」

- so that S may (can/will) … 「S が～するために」

(3) people

「このメッセージを聞かせよう。そして世界中の戦争を終わらせよう。」

- Hear this message and put an end to all the wars in the world. の受動態。put an end  
to A 「A を終わらせる」

(4) been

「特許期間が切れた医薬品は、ほかのどんな製薬会社でも自由に製造することができる。」

- expire は自動詞で「期限が切れる」という意味である。

(5) was

「仏教は紀元前 5 世紀にインドで生まれ、1 世紀に中国に伝わった。」

- originate も自動詞で「発生する」という意味であるため受動態にはしない。

## 4章

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

父が多額の金を残してくれたので、我々は好きな研究を続けることができた。

B.

#### 全訳

ナイトブリッジにあるマンションの2階。舞台上手の大きな窓は静かな通りに面している。舞台奥のドアは玄関につながっていて、舞台下手のドアは寝室につながっている。部屋は独身男独特の雰囲気で、冴えない平凡な作りつけ家具に比べて、調度品はずっとうまい具合に選ばれて配置されている。数点の見事な絵画——主としてオランダの風景画であるが——や、プロンズでできた少女の顔の像がさりげなく置かれている。

時刻は1917年の夏の夜の8時。照明が次第に消えかけているが、幕が上がっていくと部屋の中央に食卓が置かれていて、2人分の用意がされているのが見える。部屋には人影はない。

C.

#### 全訳

もし大量のビニールが飲み込まれると、動物は誤った満腹感を感じる事が理由となって、最終的には餓死してしまうかもしれない。動物は全く食べるのをやめてしまうかもしれないのである。海亀にとっては、飲み込んだビニールが過度な浮力を生じさせるために、食べ物を求めて潜ることも、敵から逃れることも、できなくなることすらある。

D.

#### 解答

(1) 「全訳」の下線部①、②参照。

(2) A. without

B. but [except] for

C. were it not for

○すべて if が省略された倒置形。

#### 全訳

一体どうしてクモが我々の友達なのか、とあなたは不思議に思うかもしれない。なぜならばクモは非常に多くの昆虫を殺し、昆虫は人類最大の敵の一部を含んでいるからだ。①もし我々が昆虫を食べる生物から受ける保護がないとすれば、昆虫は我々が世界に住むことを不可能にしようだろう。つまり昆虫は我々の作物を全部むさぼり食って、我々の羊や牛を殺してしまうだろう。②我々は昆虫を食べる鳥や獣に多くの恩恵を受けているけれども、しかしそれらを全部合わせても、クモが殺す数のごくわずかしが殺さない。その上、他の昆虫を食べる一部の動物と違って、クモは決して我々や我々の所有物に対して少しの害さえも与えない。

【2】

解答

- (1) ① **b**      ② **c**      ③ **b**  
 (2) 「全訳」の下線部①～④参照。  
 (3) **b, e**

解説

(1) ① 第2文を読むと、最初の文に描かれたことは、こんなに情報量の多い今日では、ありそうもないように思えるかもしれないが事実だ、という内容が書かれている。ここから推量して「現代の人間は、自分の住んでいる世界についてますます無知になり得る」となるよう **b ignorant** を選ぶ。

② **deal with** ～ 「～を扱う」

③ **account for** ～ 「①～の理由を説明する ② (行為など) の釈明をする ③～の支出報告をする ④～を殺す;～を射止める ⑤ (ある割合) を占める; (試合の点数) を取る」

(2)

①◇ **this** : the main characteristic of our age is the ability of most people to be more and more ignorant of the world in which they live の内容を指す。

◇ **that** ～ : 主格補語になる名詞節。

◇ **method** 「方法」

◇ **be concerned with** ～ 「～に関係がある」

◇ **not so much A as B** 「AというよりもむしろB」

○ **A = with the discovery of truth** 「真実を発見すること」, **B = with the creation of images of** ～ 「～のイメージをつくること」

◇ **how we think reality should be** : 「現実がどういうふうにあるべきだと我々が考えるか」

②◇ **obvious** 「明らかな」

◇ **this** : all our methods of communication ~ should be. の内容を受ける。

◇ **that form of communication (that) we refer to as mass communication** と関係代名詞を補って考える「我々がマスコミと呼ぶ伝達形式」

○ **that** は関係代名詞の先行詞を指し示す用法で、日本語に訳出しない。

○ **refer to A as B** 「AをBと呼ぶ」

③◇ **a simple function** と同格の部分。

◇ **the selling of** ～ : ～を売ること [selling : 動名詞]

◇ **object** : 「①物 ②対象 ③目標; 目的」

◇ **in one's right mind** 「正気の状態で」

◇ **could** : 仮定法過去。in his right mind に条件が含まれている。「もし正気ならば…ということはあり得ないだろう」

◇ **ever** : nobody を強調している「決して」

◇ **since** ～ : 理由を表す。

- ◇ his having it must imply everybody else's having it 「彼がそれを持っているということは、他の誰もがそれを持っているということの意味する」
- having は動名詞で his と everybody else's がそれぞれ意味上の主語。
- must 「…に違いない」《強い推量》
- imply 「～ということを暗に示す」

④◇ What happens 「起こること」《主部になる名詞節》

全訳では意識して「実際には…である」としてある。

- ◇ that ～：主格補語になる名詞節。
- ◇ be reminded of ～ 「～を思い出させられる」  
cf. remind A of B 「AにBを思い出させる」
- ◇ it being changed into a pleasing image of what their lives never are 「その退屈さが、自分たちの生活とはまったく違う姿の、楽しいイメージに変えられて」
- 付帯状況〔または理由〕を表す分詞構文。
- ◇ in the same way that ～ 「～と同じように」
- ◇ accompanied は付帯状況を表す過去分詞 「～に伴われた状態で」

(3) a 「限定されている」とは述べられていない。また、マスコミのイメージ作りと情報や教育や伝達などが発達しているということの因果関係は述べられていない。

**b** 本文ℓ. 9 First of all ～ with the making of false images 参照。

またその後、第2段落では「車」のイメージと現実の差異、第3段落では「ドラマ」と実際の生活の差異などが挙げられている。

**c** 本文ℓ. 18 since the entertainment ～の内容に反する。

**d** 本文ℓ. 19 For example, ～の内容に反する。

**e** 本文ℓ. 25 It is the very essence ～の内容に合致する。

**全訳**

おそらく現代の主な特徴は、大半の人々が、自分の住んでいる世界についてますます無知になりうるということであろう。情報も、教育も、いわゆるコミュニケーションも、いまだかつてないほど豊富にある世界で、そんなことはなさそうに思えるかもしれないが、周りの人たちの行動を考えてみれば誰でも、それが真実だということがわかるだろう。①その理由は、我々の伝達手段が全て、真実を発見することよりはむしろ、現実はどのようなべきかと我々が考えるイメージを作り出すことに関わっているからである。

②この最も明らかな例は、我々がマスコミと呼ぶ伝達形式である。第一に、その伝達形式には間違ったイメージを作ることに特に関わっている部分というのがある。すなわち、テレビのコマーシャルや新聞広告の世界である。一例として、快適・権力・成功の象徴としての自動車のイメージをとりあげ、これと、交通渋滞に巻き込まれている現実の車の姿、すなわち、車中の人にとっても、車外のすべての人や物にとっても、うんざりする欲求不満の源、文明人の非現実的ではかげた夢を代表するのいうってつけの例であるその現実の姿とを比べてみると良い。この場合のイメージ作りには、単純明快な役目がある。すなわち、③自分がそれを持っているということは、他の人も皆それを持っているということの意味するに違いないのだから、正気ならば誰も決して持っていたいと思わないはずのものを売るということである。

しかし、マスメディアによって提供される娯楽や情報は、直接的には誰の利益にもなりそうもないイメージを作っているからといって現代のイメージ作りが、すべて意識的な人間の悪知恵の結果であると考えてはならない。例えば、日常生活を扱ったドラマのテレビにおける人気は、それらが真実を描いていると考えたのでは説明しにくいだろう。なぜなら、自分たちの生活の退屈さを思い出したがる人などいるはずがないからである。④実際には彼らはその退屈さを思い出させられはしない。現実の生活では人は画面の主人公のように音楽の伴奏入りでは歩かないのと同じように、その退屈さは本当の生活とは全く違う楽しいイメージに変えられるからである。真実を伝えることができないというのが、まさにマスメディアの本質なのである。戦争が30秒だけ続き、悲観にくれた女主人公が消えて皿洗いの楽しいイメージにとってかわるテレビの世界は、実際の経験を否定するに違いない世界なのである。しかも現実とは違って、その世界はいつでもスイッチを切って消すことができる世界なのだ。

**注**.....

- ℓ. 1 ◇ characteristic 「特性」
  - ◇ the ability of most people to be more and more ~ 「たいていの人がますます〜できるようになること」 ‘比較級 and 比較級’ で「ますます…」
- ℓ. 2 ◇ the world in which they live 「彼らが住むところの世界」
  - live in ~の in が関係代名詞に先行した形。in which = where
- ℓ. 3 ◇ so-called 「いわゆる」
- ℓ. 4 ◇ anybody who considers the behaviour of his fellow men 「周りの人たちの行動をよく考えてみる人なら誰でも」
  - 主部になる部分。[anybody who = whoever]
  - fellow 「①男；やつ②仲間；同僚」
  - ◇ understand it to be true 「それが真実であると理解する」
  - understand O to be C 「OがCであると理解する」
  - it : the main characteristic of our age is the ability of most people to be more and more ignorant of the world in which they live の内容を指す。
- ℓ. 9 ◇ First of all 「(まず) 第一に」
  - ◇ there is *that* part of it *which* is particularly concerned with ~ 「〜と特に関わっているマスコミの一部がある」
  - that は先行詞を指し示す用法で日本語には訳出しない。  
that A which … 「…するところのA」
  - it = mass communication
  - particularly 「特に」
  - be concerned with ~ 「〜に関係している；〜に関わっている」
  - ◇ the making of false images 「間違えたイメージをつくること」
- ℓ. 10 ◇ that is (to say) 「すなわち」
- ℓ. 11 ◇ One could take as an example the image of the motor car as a symbol of comfort, power and success 「快適・権力・成功の象徴としての自動車のイメージを例としてとりあげることができよう」



- could : 仮定法過去《婉曲表現》後の contrast にも続く。
- as an example 「例として」
- ℓ. 12 ◇ and contrast this with the reality of it caught in heavy traffic 「そしてこれを渋滞に巻き込まれる車の現実と対照させることができよう」
  - contrast A with B 「AをBと対照させる」
  - this = the image of the motor car as a symbol of comfort, power and success
  - it = the motor car
  - caught は it を修飾する過去分詞。  
= it (= the motor car) which is caught in heavy traffic
  - ◇ a dirty source of frustration for the person inside and everybody and everything outside 及びℓ. 13 a perfect example of the impractical and foolish dreams of civilized man は直前の the reality of it と同格。
- ℓ. 15 ◇ a simple function と下線部③は同格。
- ℓ. 17 ◇ contemporary 「同時代の；現代の」
  - ◇ a result of ~ 「～の結果」
- ℓ. 18 ◇ conscious 「意識的な」
  - ◇ the entertainment and information provided by the media create  

S
V

images which seem to be for nobody's direct benefit  

O

「マスメディアによって供給される娯楽や情報は、直接的には誰の利益にもなりそうもないイメージをつくっている」

    - the media = mass media
    - provided は the entertainment and information を修飾する過去分詞。
    - for O 's benefit = for the benefit of O 「①Oの利益に ②Oをこらしめるために」
- ℓ. 19 ◇ the popularity on television of ~ *would* be difficult to account for 「テレビでの～の人気は説明するのが難しいであろう」
  - popularity of ~ 「～の人気」に on television が挿入された形。
  - 仮定法過去の文の帰結節。
- ℓ. 21 ◇ if one *imagined* that such dramas portrayed the truth 「もしもそのようなドラマが真実を描いたものだと思うならば」
  - 仮定法過去の文の条件節。
  - portray 「～を表現する；～を描く」  
仮定法過去にひかれて過去形になった形。
  - ◇ why should people wish ~ ? : 修辞疑問文。実際には否定の意味を表す。
  - be reminded of ~ 「～を思い出させられる」  
< remind A of B 「AにBを思い出させる」
- ℓ. 25 ◇ *It is* the very essence of the media *that* ~ 「～というのがまさにマスメディアの本質である」

- It は that ～を受ける形式主語。
  - the very 「まさにその；まったくの」
- ℓ. 26 ◇ a world in which wars last for thirty seconds, and heartbroken heroines fade away into images of the pleasures of dishwashing 「戦争が 30 秒だけ続き、悲観にくれた女主人公が消えて皿洗いの楽しいイメージにとってかわる世界」
- 主部になる部分。
  - last : 動詞で「続く」
  - heartbroken 「悲観にくれた」
  - 変化, 推移, 結果を表す into 「～になって；～に変わって」
- ℓ. 27 ◇ ~ is one which must deny what lived experience is like : 「～は生きた経験がどのようなものなのかを否定するに違いない世界なのである」
- one = a world
  - deny 「～を否定する」
  - What is S like? 「Sはどのようなものか」
  - ◇ unlike ~ 「～とは違って」
- ℓ. 28 ◇ switch O off = turn O off 「Oを消す」

### 【3】

#### 解答・解説

A.

- (1) The children are taken care of by an old woman.  
= An old woman takes care of the children.
- (2) I was caught in a shower on my way home.  
○ be caught in a shower 「にわか雨にあう」
- (3) He was injured about his face.  
○ about = around
- (4) I had my hat blown off.  
○ have O done 「Oを～される (してもらう)」
- (5) What cannot be cured must be endured.  
○ endure = put up with

B.

- (1) Not only did I get lost, but I also missed the train.  
○ not only A but also B の形を用いるが, not only を文頭に出すことで倒置形になることに注意。
- (2) Not a word did he say during the meeting.  
○ 否定の目的語を文頭に置く場合もその後が倒置されることが多い。
- (3) On the top of the mountain stands a temple where a hermit used to live.  
○ 主語は stands の後に置く。
- (4) Only when (after) the fire was under control were the residents permitted to

return to their homes.

- Only when S V という否定の副詞節が前置されているためその後は倒置される。
- (5) There was no TV set in the room, nor were there any (kind of) magazines.
  - nor V S の形にする。

#### 【4】

##### 解答・解説

いずれも入試では頻出される表現であるためできる限り早期にマスターしてしまうこと。

- (1) On (Upon) / Directly (Immediately ; Instantly) / The minute (The second ; The moment) / had I / when (before) / sooner had I / than  
「オフィスを出るやいなや、傘を置き忘れたことに気がついた。」
- (2) a famous / famous a / famous is he / fame / such / is his fame  
「彼は大変著名なのでみんな彼の名前を知っている。」
- (3) not until (only when ; only after) / that / until we lose / do  
「健康は失って初めてその大切さに気づく。」
- (4) Strange / it may seem  
「奇妙に聞こえるかもしれませんが、その海外からの旅行者たちは歌舞伎を楽しんだ。」

#### 【5】

##### 解答・解説

- (1) which  
「彼女はこれらの物語を本当だと思い、その地の女王になろうと決心した。」
  - which が関係節を作ってしまうと文にならないため不要と考えれば良い。すると OSVC の形になる。
- (2) bad  
「彼はその知らせに驚いたけれども、それを誰にも話さなかった。」
  - Although he was surprised at the news, …
- (3) they  
「彼はその間違いを再びしないだろうし、私たちもそれを真剣には考えないだろう。」
  - nor V S で「S もまた V ではない」の意味にする。
- (4) when  
「昨日になって初めて彼は腕時計をなくしていたことに気がついた。」
  - when は接続詞のため S V が必要。なお、until には前置詞用法もあるため、It was not until yesterday that he realized that he had lost his watch. は可能。
- (5) had  
「目を覚まして初めて、全く見慣れない場所にいることに気がついた。」
  - Not until SV が否定の副詞節になっていることに注意。until 節内は倒置形にする必要がない。

(6) great

「彼女の怒りは大変なものだったので、彼女は自制心を失った。」

- Such = So great である。つまり So great was her anger that she lost control of herself. なら良い。

(7) rather

「列車が動き始めるとすぐに彼女は居眠りを始めた。」

- no sooner ... than の形式。

## 【6】

### 解答・解説

(1) as

- regard A as B の A の部分が後置された形。

(2) was

- as her mother was の S V が倒置されている。

(3) That

- I wouldn't say that SV の that 節 (say の目的語) が倒置されている。

(4) Such / beauty that

= She was so beautiful that she was hailed as "the Goddess of the Silver Screen".

(5) nor did she admit / blame

- nor V S の形にする。be to blame は「責められるべき」という意の表現。

(6) sooner had he / than / crying

- No sooner ... than SV. 「～するや否や S V」
- burst out crying = burst into tears 「突然泣き出す」

## 5章

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

本が私たちの人生に深い影響力を持つとしたら、おそらくそれは子供の頃だけである。その後の人生では、私たちは本に感心したり、楽しませてもらったり、すでに持っているものの見方を多少変えたりすることはあるかもしれないが、①多分すでに自分の中にあるものを本で確認するだけが多いだろう。色恋沙汰の場合と同様に、嬉しそうにそこに映って見えるのは私たち自身の姿なのである。

だが、子供の頃は、すべての本は予言の書であり、私たちに未来について教えてくれ、ランプのカードの中に（将来の）長い道りを見る占い師のように、本は将来に影響を与えるのである。だから本は私たちをあれほど興奮させたのだと私は思っている。②人生の最初の14年間で得た興奮や啓示に匹敵するようなものを、私たちは最近の読書から得ることが果たしてあるだろうか？

B.

#### 全訳

十分に追求された研究はそれぞれ、学者の手にある鍵を委ねる。そしてこの鍵によって、さもなくば彼には閉ざされたままであるだろう世界の扉のうちの1つを、学者は開けるかもしれないのだ。

C.

#### 全訳

現存する初期の文学作品のほとんどは、名を成しつつあった芸術家によって、領主たちを喜ばすために書かれた。そして領主たちは彼らに庇護の手を伸ばしてやった。しかし、一般大衆の立場からの論評もある程度あった。この論評は、教育や社会的な面での機会が増えるにつれて、その分量を増やし、抗議の色を強めた。そしてついに19世紀に入ると、中間層のあらゆる領域の声が聞かれるようになった。

#### 【2】

#### 解答

- (1) pessimism
- (2) 「全訳」の下線部②参照。
- (3) case
- (4) (マンモスのような堂々たる体躯を誇る生物に対して) もっと小さな人目を引かない生物。
- (5) ① thrive    ② come    ③ died [die]    ④ applies

**解説**

(1) optimism (楽観主義) の反意語は pessimism (悲観主義)

cf. adj. optimistic ⇔ *adj.* pessimistic

(2) allow ~ to ...で「～に…させておく, ～が…するのにかかせる」の意。get out of control は「制御できなくなる」の意。下線部を直訳すると「変化の力が制御不能になることを許した」となるが, つまり, 「変化の持つ力が手に負えないものになってしまった」ということ。

(3) 下線部の no less ~ than ...は「…と同じくらい～である」の意。be true of ~は「～について事実である; ~について当てはまる」, the social はすぐ後の the physical organism と対比して the social organism のこと。したがって, 下線部は「このことは, 物理的な生命体と同様に社会的な生命体にも当てはまる」となる。This is the case with ~も「～について当てはまる」という意味を表す。

(4) humble *adj.* = low in rank; unimportant; not large or elaborate: 身分の低い《第1義: 謙虚な (= not proud)》直前の文で「変化に屈する生物」と「生き残る生物」が示され, 前者がマンモス, 後者が “humbler forms of life” に対応する。したがって, 「より柔軟で適応力のある生物」といった内容を表す。

(5) ① thrive = prosper; flourish; grow vigorously

② come over = happen to ~ 《fall でも可「～の上に降りかかる」》

③ die out = cease to exist; disappear

cf. out *adv.* = completely

④ apply to ~ = be relevant to ~; concern 「～に関与する」《refers でも可》

問題文の意味は「生き物は周囲の環境のわずかばかりの変化によって, 却って一層繁栄するものであるが, もしそうした変化が余りに大規模に発生すると, 破滅させられるだろう。そういうわけで, 動物の中の幾つかの種は絶滅した。同様のことが人間の文化にも当てはまる。余りに突然の変化は, それらを破壊する。」

◇ all the more = so much more

○ all *adv.*: 強意語

◇ too large a scale

○ large が副詞 too に引かれて冠詞 a と語順が入れ替わった形

◇ abrupt *adj.* = sudden and unexpected 「不意の; 突然の」

◇ them = human cultures

**全訳**

文明を過去百年の間にこれほどまでに大きく変えた変化という動きは, あらゆることを望み, 何物をも恐れないという心底からの楽観論という気運の中で現代の知性によって受け入れられて来た。そして実際にしばらくの間, あたかもこの楽観論が正当なものででもあるかのように, そしてまた物質的繁栄の増大にとって, さらにまた科学的知識や政治的自由の進歩にとって限界などないように思われていた。しかしながら今日の世界には, ②我々が変化の持つ力を野放しにして, 我々の手に負えなくなり, またそれらが我々の文明が持つ生命に対する重大な脅威となるに任せてしまっているという不吉な徴候が存在する。生命が変化を伴うのは必然であ

るが、このことは変化が必ず生命を伴うということの意味するわけではない。一個の生命体が耐えられる変化の総量には必ず一定の限界があり、このことは物理的な生命体と同様に社会的な生命体にも当てはまる。一個の種は気候のわずかばかりの変化に自らを対応させ、さらにそのことによって却って一層栄えるかも知れないが、もしもその変化がきわめて大きなものであれば、同系統の種が丸々死に絶え、新たな種がその地位に取って替わるかも知れない。そして一般に、その種が特殊で、入り組んだ構造を持つものであるほど、変化によって絶滅し易く、また一方、柔軟で適応力のある形態の生物は生き長らえる。威容を誇るマンモスも氷河期の終わりと共に死に絶えたが、その一方で、マンモスに比べれば見すばらしい形態の生物がその数を増やした。

同様に、人間の文化や社会生活の形態も、文化が変化することによって自らを発達させ、豊穡にするが、もしもそうした変化が激し過ぎたり、突然過ぎたり、或いはその文化が過剰なまでに型にはまった流動性を欠くものであれば、変化は進歩ではなく死をもたらす。

**注**.....

- ℓ. 1 ◇ which : 関係代名詞。先行詞は the movement of change
  - ◇ transform *vt.* (= trans- (= in another state) + form) : 変形する
- ℓ. 3 ◇ that : 関係代名詞。先行詞は a spirit of whole-hearted optimism
  - whole-hearted *adj.* = without doubts; full and complete
  - ◇ indeed *adv.* (= in- + deed < do) : 実践においても
  - ◇ it = as though ... and that ...
  - ◇ for a time = for a short period
- ℓ. 4 ◇ justify *vt.* = show that (something) is right, reasonable or just
- ℓ. 5 ◇ prosperity *n.* *cf.* prosper *vi.* = succeed; thrive
- ℓ. 6 ◇ ominous *adj.* *cf.* omen *n.* 「前兆」
  - ◇ that *conj.* : ominous signs を修飾
- ℓ. 8 ◇ necessarily *adv.* = inevitably; unavoidably (必然的に; 不可避免的に)
  - ◇ imply *vt.* = involve; suggest indirectly; hint 《原義: 包み込む》
- ℓ. 9 ◇ which : 関係代名詞。先行詞は the amount of change
  - ◇ capable of ~ = having the ability for ~ (~に関して可能で) 原義: 掴み得る  
*cf.* capacity *n.* 「容量」
  - ◇ organism *n.* = living being  
*cf.* organic chemistry 「有機化学」 ⇔ inorganic chemistry 「無機化学」
- ℓ. 10 ◇ true of ~ 「~に関して真実な」
  - cf.* of = about; concerning
  - ◇ the social (organism) : ある種の生命を持つとも考えられる社会・文明・宇宙を1つの有機体と見なす考え方  
*cf.* 社会有機体説 (= Social Organismic Theory)
  - ◇ physical *adj.* = material (as opposed to mental)
- ℓ. 11 ◇ flourish *vi.* = prosper; be successful *cf.* flower *n.*
  - ◇ the *adv.* = by so much; by that amount (その分だけ)

- 語義中の so; that が示す「その分」は、文中の for it が表す
- ℓ. 12 ◇ series *n.* 「系」。種 (= species) の上, 属 (= genus) の下。  
 ◇ extinct *adj.* = no longer in existence; that has died out  
*cf.* extinguish *vt.* = end the existence of; put out  
*e.g.* fire extinguisher (消火器)  
 ◇ new ones = new species  
 ◇ as a rule = usually; in most cases
- ℓ. 13 ◇ the more ~, the more ... : more 以下の S V が倒置されているが、必ずしも倒置の必要はない。2 番目の the *adv.* = by so much  
*cf.* 最初の the は「関係副詞」と言われるが、ここでは深くは立ち入らない  
 ◇ elaborate *adj.* = very complicated  
*cf.* ex- (= out) + labor (= work) : 苦心して作り出す  
 ◇ succumb *vi.* = be forced to give way; yield; give in
- ℓ. 14 ◇ plastic *adj.* = easily formed into various shapes by pressing (可塑性を有する)  
*e.g.* plastic bag (ビニール袋)  
 plastic surgery (形成外科)  
 ◇ pass away = die
- ℓ. 15 ◇ glacial *adj.* = of ice; icy *cf.* glacier *n.* 「氷河」
- ℓ. 16 ◇ multiply *vi.* *cf.* multiplication *n.* 「乗法」 ⇔ division *n.* 「除法」
- ℓ. 17 ◇ develop *vt.* : 目的語は themselves
- ℓ. 18 ◇ or (if) the culture (is) too stereotyped  
 ○ stereotyped *adj.* = fixed; standardized; without individuality
- ℓ. 19 ◇ progress *n.* *cf.* pro- (= forwards) + gress (= walk) 「前進する」

### 【3】

**解答** .....

A.

- (1) F      (2) T      (3) F

B.

I The Hutterites are descended from the sixteenth-century Anabaptists.

- They believed that people should be baptized as adults rather than as infants.
- The Anabaptists believed in communal property sharing and polygamy.
- Rulers in Europe persecuted them and sometimes killed them.
- The Anabaptists would have preferred to be called Brethren or Bible Christians.

II After moving around eastern Europe for several centuries to avoid persecution, the Hutterites moved to America in the 1870s.

- The Hutterites take their name from an early leader, Jacob Hutter.



III The Hutterites established colonies in rural America.

- Most Hutterite colonies support themselves by farming.
- Some manufacture such products as hog feeders and coal boilers.
- No one gets a salary.
- The colony takes care of each person's needs.

IV The Hutterites are against war and all forms of violence.

- Hutterites reject military and police service.
- They also don't believe in holding public office.

V The Hutterites' lifestyle is simple.

- They do not approve of immodest, fancy, or stylish dress.
- Hutterites produce their own food, and make their own furniture by hand.
- They educate their children in both English and German.
- They do not reject all use of modern machinery.

**Script** |

**CD 3**

A.

The Hutterites are Christians who live in small communities apart from the rest of American society. They live in shared buildings, eat in common dining rooms, and work and worship together. Hutterites own no personal property, and have little contact with outsiders. They believe this is to be God's will. For the Hutterites, faith, communal living  
5 and a lot of hard work are the path to heaven. [66 words]

**CD 4**

B.

Like the Amish and Mennonites, the Hutterites are descended from the sixteenth-century Anabaptists, one of the religions that was founded during the Protestant Reformation. These Bible-practicing Christians believed that people should be baptized as adults, not as infants, since a baby could not possibly understand what baptism means. They  
5 rebaptized those already baptized as infants or as unbelievers. They also practiced communal property ownership and polygamy, that is, the taking of more than one husband

or wife. As these practices were considered radical and dangerous by both Catholic and Protestant rulers, the Anabaptists were persecuted and sometimes put to death. The Anabaptists never used the term Anabaptist themselves and objected to it because of the  
10 criminal character associated with it. They would have preferred to be called Brethren or Bible Christians, but the name given them by their enemies stuck with them.

The Hutterites take their name from an early leader, Jacob Hutter. After moving around eastern Europe for several hundred years to avoid persecution, they moved to the United States in the 1870s.

15 The Hutterites succeeded in establishing colonies in rural America. More than 35,000 of them now live in roughly 400 communities in Montana, Washington, North and South Dakota, Minnesota, and western Canada. Most Hutterite colonies support themselves by farming, some through the manufacture of such products as hog feeders and coal boilers. No one gets a salary for this work; each person's needs are taken care of by the colony.

20 The Hutterites are pacifists, which means that they are against war and all forms of violence. Hutterites reject military and police service. They also don't believe in holding public office.

The Hutterites do not approve of immodest, fancy, or stylish dress. They wear simple, distinctive, old-fashioned clothes that they make themselves. The women wear scarves and  
25 the men wear black hats. Hutterites still produce their own food, make their own furniture by hand, and educate their children in two languages: English and German. Unlike some other groups with similar Anabaptist roots, such as the Amish, they do not reject all use of modern machinery. The Hutterite brethren farm large pieces of land with the latest in modern equipment. [361 words]

全訳

A.

フツライトの人々とは、アメリカの他の社会とは隔絶された小さな共同体に住むキリスト教徒のことである。彼らは共用の建物に住み、同じダイニングルームで食事をし、共に働き、

教会へ行く。フットライトは個人の財産を所有せず、外部の人とはほとんど接触しない。彼らは、それが神の意志だと信じている。フットライトにとっては、信仰、共同生活、勤勉に働くことが、天国への道なのである。

B.

アーミッシュやメノナイトと同様、フットライトは16世紀の再洗礼派の子孫である。再洗礼派は、宗教改革の時期に創立された宗派の一つである。聖書を実践するこれらのキリスト教徒たちは、赤ん坊はどうあっても洗礼の意味を理解できないので、幼児ではなく、大人になってから洗礼を受けるべきであると信じた。彼らは、すでに幼い頃に、あるいは信仰心のないままに洗礼を受けた人たちに、再洗礼を施した。彼らはまた、共同体による財産共有と、複婚制を実践した。つまり、一人以上の夫や妻をもった。こうした実践は、カトリックとプロテスタント両方の支配者たちから過激で危険であると見なされたため、再洗礼派は迫害され、ときには処刑された。再洗礼派の人たちは、決して自分たちでは再洗礼派という言葉を使わず、それに反感をもっていた。その言葉から連想される、犯罪的な性質のためである。彼らはプレスレン、あるいはパイブル・クリスチャンと呼ばれるほうを好んだが、敵からつけられた名前が彼らにつきまとったのだった。

フットライトは、その名前を初期のリーダー、ヤコブ・フッターからとっている。迫害を避けて何百年かの間、東欧をあちこち移動したのち、彼らは1870年代にアメリカ合衆国に移って来た。

フットライトはアメリカの農村地域に集落を築くことに成功した。現在、彼らの3万5000人以上が、モンタナ、ワシントン、ノースダコタとサウスダコタ、ミネソタ、それにカナダ西部に、およそ400の共同体を設けて暮らしている。ほとんどのフットライトの集落は、農業によって自給自足の生活をしている。豚のえさやり機や炭用ボイラーといった産物加工によって生活している集落もある。この仕事で給料を得る者は誰もいない。というのも、各人の必要物は、その集落によって面倒をみられるからである。

フットライトの人々は平和主義者である。つまり、彼らは戦争やあらゆるかたちの暴力に反対する。フットライトは兵役や警察勤務を拒否する。彼らはまた、公職に就くことも考えない。

フットライトは、下品な、装飾的な、あるいは流行の服をよしとしない。彼らは、自分たちで作った、簡素で特徴的な、古風な服を着る。女性はスカーフをまとい、男性は黒い帽子をかぶる。フットライトはいまだ、食糧は自分たちで生産し、家具は手作りし、子どもたちには2ヶ国語、英語とドイツ語で教育する。再洗礼派に起源をもつ、アーミッシュのような、他のいくつかの類似の宗派とは異なり、彼らは近代的な機械を使うことをすべて拒否するわけではない。フットライトのプレスレンたちは、最新の近代設備を用い、広大な土地で農耕を行っている。

#### 【4】

##### 解答・解説

(1) The movie, in spite of my fears, was the best I have seen this year.

「私の不安にもかかわらず、その映画は今年見た中で最高だった。」

(2) My father, a great skier, was born in Setagaya, Tokyo, on April 11, 1969.

「私の父は、偉大なスキーヤーでしたが、1969年4月11日東京都世田谷区で生まれた。」

- (3) The man was, as you know, fired from his last four jobs.  
「ご存知のとおり、その男は最後の4つの仕事からも解雇された。」
- (4) I wonder if we will (.) at length, as we call ourselves reasonable creatures, have good sense and create a world without war.  
「結局私たちは、自分たちを理性的な動物と呼んでいるように、良識を持ち戦争のない世界を創ることになるのでしょうか。」
- (5) It will be better, don't you think, to invite his parents as well.  
「彼の両親もまた招待するほうが良いと思いませんか。」

## 【5】

### 解答・解説

- (1) o  
○ so to speak = as it were 「言わば」
- (2) q  
○ for one 「私としては」
- (3) m  
○ but instead 「そうではなくて」 cf. instead of A 「Aではなくて」
- (4) a  
○ if anything 「どちらかと言えば」
- (5) b  
○ if ever 「たとえあったとしても (たとえいつかあるとしても)」
- (6) f  
○ it must be confessed という節が挿入されている。
- (7) k  
○ as far as I know 「私の知る限り (= to the best of my knowledge)」
- (8) h  
○ as far as S is concerned 「Sに関する限り」
- (9) j  
○ as S go 「平均的なSからすれば」
- (10) l  
○ but in vain 「しかし無駄だった」  
Ex. He tried in vain to do it. (彼はそれをしようとしたが無駄に終わった。)
- (11) d  
○ incidentally 「ついでに言えば」
- (12) n  
○ talking of A 「Aについて言えば」 《慣用的な独立分詞構文》
- (13) i  
○ as a rule 「一般に；通例；概して」
- (14) p

- after all 「(いろいろ言ってみたが) やはり；結局」
- (15) g
  - if abstract 「たとえ難解（抽象的）であったとしても」
- (16) r
  - in the meantime 「そうこうしているうちに；さしあたり；他方では」

## 【6】

### 解答・解説

- (1) worse
 

「私は終電に乗り遅れた。さらに悪いことにはタクシーに乗るお金も持っていなかった。」

  - what is worse 「さらに悪いことには」という修飾語句を作る。この文では was でも可。
- (2) called
 

「私たちはいわゆる情報社会に住んでいるのです。」

  - what is called A = what you call A = what we call A 「いわゆる A」
- (3) any
 

「彼女が回復する希望は、たとえあってもほとんどない。」

  - if any A たとえあるとしても (or もしあるなら)
- (4) it
 

「彼の祖母はどうやら 90 を超えているらしい。」

  - It seems that his grandmother is over ninety. の It seems という主節が挿入された形。
- (5) as
 

「疲れてるように見えると彼女は言った。彼は疲れていたけれども、彼女のために最善を尽くした。」

  - ~ as SV = ~ though SV = ~ that SV = though SV ~ 接続詞 as を使用する場合には理由にもなりうる。
  - Ex. Rich as he is, he can buy anything you want.
- (6) as
 

「実際、易しいフランス語で書かれているので、この本は学生には良い。」

  - Done ( as it is ) ~, と as it is を挿入的に考える。「実際（現に）～なので」《理由を表す分詞構文の強調》
- (7) As
 

「猿と同様に、人間は哺乳類です。」

  - as with A 「A に関してと同様に；A のように」
- (8) doubt
 

「確かにあなたはこの種のことを聞いたことがあるでしょうが、これが必ずしも真実と言うわけではないのです。」

  - no doubt ~ but … 「確かに～だが（しかし）～」
- (9) unlike
 

「彼は『ひらがなは、有益な情報を持つ漢字と違って、音声の役割しかありません』と言っ

た。」

○ unlike A 「Aとは異なり」

(10) let

「彼は自分の赤ん坊を抱いたことすらありませんし、ましてオムツを替えたことなんてありません。」

○ let alone A 「Aは言うまでもなく」

【1】

解答例

I wish you hadn't had such a bad cold because I'm sure we'd have enjoyed the classical music concert. (19 words)

It's your fault we couldn't go to the concert! Why did you have to go and catch a cold? (19 words)

If only you hadn't been careless enough to catch a cold, we could have gone to the concert and enjoyed ourselves. (21 words)

【2】

解答例

(1) 飛行機が完全に停止するまで座席から立たないでください。

Please remain seated [in your seats] until the aircraft has come to a complete stop.

(2) 日本の学生は日常会話の英語を学ぶ機会がないし、そういう英語をしゃべるチャンスがないと言われています。

It is said that Japanese students are not given the chance to learn how to conduct [hold] daily conversations in English, nor do they have the opportunity to speak the language.

E2JS/E2J  
高2 選抜東大英語  
高2 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製